

# 令和4年度 重点研究 全体計画

## 1 研究主題

### 主体的で対話的に学ぶ子どもの育成

各部会における目指す子どもの具体的な姿

- 《低学年》 ～自分の思いや考えをもつ（感じる）ことができる子ども～
- 《中学年》 ～相手や目的に応じて、自分の思いや考えを伝え合う子ども～
- 《高学年》 ～自分の思いや考えを発信し、思考を交流できる子ども～

## 2 研究教科

国語

## 3 研究主題について

### (1) 今日の課題から

情報があふれている現代社会では、知りたいことはネットで調べればすぐに知ることができる。そのため、分からない言葉があったら、物事の前後から意味を推測して自分で考えることや、辞書を使って時間をかけて調べることは少なくなってきている。そんな情報化社会の中で、学習活動の大幅な制限や変更と向き合いながらのコロナ禍における学校生活も2年が過ぎた。変化の大きい時代において、これからも「今できることは何か」を考え、子どもたちが自ら問いを見出し、最後まで粘り強く課題解決に向けて主体的に学ぶことで得た知識や経験を活用したり伝えたりする力はより一層大切になってくると考える。

### (2) 学校教育目標の具現化から

#### ＜学校教育目標＞

自ら学び やさしい心で たくましく生きる 子ども  
健康な心と体を持ち 自分も友達も大切にしながら自らの言葉で伝え  
行動できるたくましい子どもを育てます

本校では、上記の学校教育目標を掲げ、一人ひとりの知・徳・体のバランスよく備えた子どもの育成を目指している。主体的に学ぶには、何のために学ぶのか、子どもたち自身が目的意識をもち、粘り強く学ぶことが大切である。自分に必要な力を自覚し、その力を身に付けていくために子どもたちがすすんで学ぶことは、これから自分で考え行動して生きていくうえで必要な力である。また、学んだことや考えたことを、友達と伝え合うことで、自分では気付かなかった考えに触れたり、友達と学び合う良さに触れたりすることができるため、自分の考えも大切にしながら友達と協同的に学ぶことにつながる。また、対話とは、他者とのやり取りだけではなく、自分とのやり取り、作者や作品とのやり取りを通して、より深い学びが形成されていくと考える。以上のことから、主体的・対話的な学びを通して、本校の教育目標の具現化につなげていく。

さらに平成29年改訂の新学習指導要領でも「今回の改訂は、『生きる力』の育成という教育の目標が各学校の特色を生かした教育課程の編成により具体化され、教育課程に基づく個々の教育活動が、児童一人一人に、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な力を育むことに効果的につながっていくようにすることを目指している。（新学習指導要領総則 P34）」との記述がある。予測困難な時代をこれから迎えるであろう子どもたちは、互いに関わり合いながら「自ら学び」、「たくましく生きる」必要性が求められているということがいえるのではないだろうか。

#### 4 研究仮説

児童一人ひとりにとって必要感のある学習課題を設定し、どのような授業デザインや教師の手立てが有効であるかということ、児童の具体的な姿を根拠として検討、検証することで主体的・対話的に学ぶ子どもの育成が実現できるのではないだろうか。

#### 5 研究内容

- 指導法の工夫・改善
  - ・主体的・対話的に学ぶための単元構想などの手立て
  - ・相手意識、目的意識を明確にした学習課題の設定
  - ・身に付けさせたい力と言語活動、教材の分析
- 確かな学力の定着を図る授業づくり
  - ・育成を目指す資質・能力を育む言語活動の設定

#### 6 研究日程

6月30日(木)	第1回授業研究会
10月21日(金)	第2回授業研究会
11月4日(金)	第3回授業研究会
12月2日(金)	第4回授業研究会
1月27日(金)	第5回授業研究会